

## 岩美分科会

景観と環境

鳥取駅からボンネット  
バスで岩美入り14時30分  
たじり  
田後集落を探検

16時30分 【分科会】

コーデイネーター

山下茂さん

パネリスト

神近牧男さん

長谷川八重さん

榎本武利さん

中島巳之助さん

19時 【夜なべ談義】

分科会での議論を始める前に、岩美ガイドクラブのご案内で漁業集落の田後地区を巡った。まさにスローツーリズムそのものの大変素晴らしい体験をさせていただいた。

分科会では、鳥取環境大学の神近副学長が、自然の恵みである環境と、人が織りなす美しい風土の概念が大切だと強調。風土をつくるには長い年月が必要だが、

世代を超えて持続的な取り組みをしてもらいたいと提起があった。静岡県掛川市で活動しておられる長谷川さんは、市民主導のスローライフへの取り組みを紹介。人々の間にプロセスを楽しんでいく方向が生まれていること、無いものねだりではなく、あるもの探しをすることが大切だ、と具体的なお提案があった。

地元岩美で岩美ガイドクラブなどボランティア活動をすすめておられる中島さんからは、「浦富八景」などの自主的な企画を通じて新しい発見が生まれ、そこから活動がさまざまな方面へ広がったことが紹介された。活動の積み重ねによって、人と人との出会いの大切さを実際に体験され、多くの人々と協力して楽しみながら活動することが持続的な地域づくりを支えている、と総括的な発言があった。

榎本町長からは、美しい景観など素晴らしい環境を

生かすためのさまざまな方策について課題を含めてご報告いただき、その中で浦富海岸のジオパーク構想なども披露された。ツーリズムの世界で考えても、これからの時代の新しい価値観を重視する潮流をとらえた取り組みと、参加者一堂大いに期待し、納得して承った。

総括的には、さまざまな地域づくりへの取り組みを続けてゆく中で自分たちの地域に今ある資源を再発見・再認識し、地域に自信と誇りを持つことが大切である、地域の誇りに支えられて持続的な取り組みをしてゆこう、というお話があった。参加者一同、認識を共通のものとした。

(報告：山下 茂さん)

## 若桜分科会

旅と環境

17時20分

【観光ツアー体験】

S Lと手動式転車台

蔵通り、カリヤ通りなど

19時

【分科会+夜なべ談義】

コーデイネーター

篠田伸夫さん

パネリスト

渡辺一正さん

永田英雄さん

発表

若桜町職員、環境大学生の皆さん。若桜鉄道と、まちの活性化について。

「若桜宿まちづくり協議会」会長の門村さんの名ガイドで、六つの水路と三つの道路で南北に構成された素晴らしい町並みを歩いた。この街並みは、明治の大火を教訓にみんなで話し合って決めた、日本で最初と思われる都市計画に基づくもの。そういう住民パワーが若桜にはある。

歩いていると、非常に涼やかな水の流れる音色が聞こえ、一段低くした水路に腰掛けて足をつけられる「足水」もある。五感全開で楽しめるまちが、何とはなしにうつらうつらしていった。水路はお屋敷に引き込まれていて、あるお家に入らせてもらおうと、御簾を開けると池の方から屋敷へ涼しい風が入ってくる。これぞ天然エネルギーを使ったスローライフ。スローライフという言葉なんか知らなくても実際にやっておられるところを垣間見させていただいた。

分科会は夜なべ談義を兼ねて、「吉川 YYC」という

若者グループと、おばちゃんたちの「白菊の会」のコラボレーションで、手作りの大変なお馳走を食べさせてもらった。

3組の方々に分科会冒頭で報告していただいた。お腹が空いては...と、各テーブルにしつらえたコンロで地元の豚肉を焼き始めたら、会場は煙モクモク、目はシパシパ。とにかく地元の人、会場の人、多くの人に語ってもらった。

鳥取環境大学の渡辺教授は、「人と人との関係。これが環境の本質だ」と話されました。人が住みやすい状況にデザインしてゆくことが重要で、デザインする過程で住民が加わってくるといふこと、と思う。そして「旅」。元JTB社員だった永田さんは、これまで自分たちは何でもある幕の内弁当方式の旅を強制してきたのではなかったか、と反省を込めて語り、ゆっくり、のんびり、本当に好きな時間を過ごすのが本来の旅では...と、これからの旅をお話された。また渡辺先生からは、住民が豊かに楽しく暮らしている生活をのぞき見するのが旅ではないか、と提言があった。「旅は目的ではなく結果。光っているものを見させてもらうことで地元の人たちとの交流が始まる、そういうのがこれからの旅ではないか」というお話だった。

(報告：篠田伸夫さん)

## 智頭分科会

健康と環境

14時30分  
石谷家など智頭宿を散策

15時30分

【分科会】

コーディネーター

斉藤 睦さん

パネリスト

谷口大造さん

寺谷誠一郎さん

岸本真澄さん

西村早栄子さん

谷口貴美恵さん

19時〜【夜なべ談義】

もう一つの結論は「都会の人よ、智頭で子どもを生み、ここで子育てをきなさい」。これは「安産の里構想」と言っている。日本で今、産科医が足りなくなって子どもを生むことがとても難しくなっている。智頭の町立病院にできるだけ産科医にきてもらおうし、お母さんの心を和らげて安心させ、人間の絆の中で子どもを生んでもらうための役割を果たす助産士さんを配置して、安産の里構想をやる。この二つが智頭のビジョンであるということが確認された。

実現へのエネルギーになってくれる人には三つのタイプがある。まちおこし等でよく言われているが、よそ者、若者、ばか者。活性化しているところはどこでも、この三タイプの人々が活躍している。分科会会場には、智頭に惹かれてやってきて住んだという、よそ者の方がたくさんおられた。こういう方たちが智頭に眠っている資源を、実はこういうのは重要なんだよ、疎開の時の資源になるんだと、メッセージを発している。それから、バカになってやる人。智頭の寺谷町長は「思い込んだら命がけ」と自分が体現したことを、おっしゃってやってくださるので、実現するのだなと、みんな予感を持ったと思う。

(報告：斉藤 睦さん)

「洞爺湖サミットの議論よりも内容が濃く、国会の議論より数倍も面白かった」と分科会の感想をいただいた。いかに充実した議論だったがお分かりいただけると思う。

結論は二つ。一つは「都会の人よ、智頭に疎開にいらっしゃい」ということ。都会で身体や心を病んだ人たちが智頭に来れば、きれいな森の中でフィトンチッドを浴びながらお医者さんが治療をしてくれる。今、2時間待たされて3分診療なんて言われているが、智頭では待たされても森林の空気で健康になるぐらいの、とても楽しく充実した医療を受けられる。森の中で子どもの本の読み聞かせもする。蔵のような建物の中で映画上映やギャラリーもできる。そういう智頭へ疎開にいらっしゃい、というのが一つ目の結論だ。



鳥取市の海岸に白兔神社があるが、八頭町にも白兔神社があり、隠岐島の漁師が航海安全と大漁を祈ってたくさんの額を寄贈している。白兔伝説では隠岐島から白兔がきたことになっている。八頭町と隠岐島のつながりがあるのではと思わせるものだった。

パネリストは、鳥取環境大学の東樋口教授と、北海道阿寒・まりも倶楽部の荻生さん。地元からは郷土歴史研究家の新 誠さん、三児の母である福本揚子さんにご参加いただいた。

「物語や昔話はもっと大事にしなければならないのではないか」というのが議論の大きな流れ。自然というのは決して人間に従順なものではなく、時には反逆もするし、しっぺ返しもされる、自然との付き合い方は相当難しいものだと言われている。ところが今は物語性が失われ、奥深い人間が育ちにくい状況になり、相手の立場に対する想像力を失わせつつあるのではないかと、それが秋葉原の事件などに結びついているのではないかとのお話があった。

白兔伝説を今日的コンセプトで読み取る試みもした。伝説では浜に白兔が上陸する直前に「お前たちをだましてやった」とワニに言って、しっぺ返しを受ける。ここから「急ごうとして人をだますとバチが当たる。物事はゆっくり、ゆったり、正直にやるべきで

## 八頭分科会

歴史と環境

14時30分

白兔神社など

史跡・神社仏閣めぐり

16時〜【分科会】

コーディネーター

田嶋義介さん

パネリスト

東樋口 護さん

荻生 恭子さん

新 誠さん

福本揚子さん

18時30分〜【夜なべ談義】

はないか」というのが一つ。また、兔は多産のシンボルでもある。八頭町の白兔神社には稲生(いなり)の神様が合祀されているそうだが、農耕の神も一緒になっているのではないかと。多産は人間の社会を続けてゆく大きな要素として大事だった。少子化と食料危機の今日、「安心して子どもを生み育てられる環境をつくり、農業を大切にしよう」というのが一つ。そして伝説には、兔は大国主命のアドバイスで身体を洗ってガマの穂の花を散り敷いたところで寝転がり、傷が元通りになったというのがある。ここから「自然の治癒力をもっと大事に」ということも読み取れる。結論として、こうした伝説の意味をこの地で勉強する機会を作ってだんだんと広め、まず町民の意識を変えてゆくことが大事ではないか、ということになった。

(報告：田嶋義介さん)